

# AAPM に参加して

金沢大学医学部保健学科 田中利恵

AAPM 46<sup>th</sup> Annual Meeting は、AAPM (American Association of Medical Physics) の主催で、毎年 1 回米国内で開催される米国の医学物理士の学会です。今年はペンシルベニア州ピッツバーグにある David L. Lawrence Convention Center で 7/25~29 にかけて開催されました。参加者のほとんどが医学物理士か、医学物理士を目指す学生で、画像診断に関する演題よりも放射線治療に関する演題が圧倒的に多い構成でした。学会ホームページによると、アメリカ国外からの参加者は全体の 10% であるとのこと、会場内で日本人を見かけることはほとんどありませんでした。

これまでも何度か国際学会に参加してきましたが、今回は初めての 1 人旅でした。一人旅のメリット は現地で新しい仲間ができるということです。今回は技術学会や画像系の学会でお会いすることの少ない放射線医学総合研究所の연구원の方と、研究や将来についてお話する機会に恵まれました。国際学会の何が一番魅力的かといえば、それはそこに集まる「人」ですね！

AAPMで発表するためには、以下のプロセスを踏みます。

アブストラクトの提出	2 月下旬くらいまで、250 words 以内、オンライン
発表カテゴリー	Educational：教育的内容（ポスター形式のみ） Professional：経済、政治、法律、倫理関連 or 医学物理関連の話題 Scientific：新しい方法、技術
発表形式	Oral：発表 15 分（質疑応答含む）、データを CD/USB メモリで持込 Moderated Poster：4 x 8 feet、口頭発表あり かなり広いスペースです Standard Poster：4 x 4 feet、口頭発表なし （1 feet は約 30 cm）
Supporting Document	Young/Junior Investigator competition への投稿を希望する場合は、アブストラクトと同時に提出する必要がある(A4 で 4 ページまで)。それ以外は 6 月中旬までに提出する。当日審査員によって発表内容を採点され高得点者は賞が貰える。選ばれるだけでも名誉なことである。
採択通知	4 月中旬、E メールにて URL が通知される、その URL にアクセスする
登録	発表者でも高額な登録料 (Member \$ 400 / No-member \$ 765 / Student \$ 127)
ホテルの予約	学会の HP 経由、わりと安い、4 月中に予約したほうがよい
飛行機の予約	会期が夏休み期間中なのでかなり高額、今回は往復(エコノミー)で 18 万円
開催期間	7 月末、米国内、来年はシアトル

President Symposium では、画像診断領域および放射線治療領域の今後の動向について4つの講演が行われました。“Imaging from Man to Molecules”と題した講演では、最新のImagingが9レベル(m cm mm ...)に分けて、撮像法、原理、画像、今後について解説されました。解剖学的情報にもとづく画像診断の限界が述べられ、CTに機能データを付加していく方向性が強調されました。「実際にはどういう方向に行くかは分からないが、新しいimaging techniqueをどのように応用していくかが、Medical Physicistの仕事として非常に大切である」というコメントには強い共感を覚えました。会場が一番大きなホールが、ほぼ満席になるほどの動員数だったことから、参加者の注目の高さがうかがえました。一方、機器展示は放射線治療のための装置がほとんどでした。技術学会の春の総会学術大会の8割くらいの規模でした。しかし、放射線治療のための装置の品揃えはとてもよかったです。朝9:30~と夕方4:30~のそれぞれ1時間ずつ、ドリンク&おやつサービスコーナーが設置されました。

教育講演が充実していて、朝のRefresher Courseは7:30開始と8:30開始の2コマ用意されていました。学生司会によるStudent meetingでは「学生のうちにしておくことは何か?」「医学物理士になるには?」とか「医学物理士として成功するには?」「研究者としての成功は何か?」といったテーマの講演が行われ、「人を育てよう!」という雰囲気強く感じました。個人的には「アメリカで研究者として働くには?」という内容を一度聴講してみたいです。技術学会でそんな企画をしていただけませんか?

ここで少し、今回の研究発表について紹介したいと思います。“胸部X線動画像を対象とした呼吸位相自動解析法”についてModerate Poster形式で発表しました。横幅2.44mというかなり広い展示スペースが与えられたため、ポスターは盛りだくさんのコンテンツになりました。Moderate Poster形式の口頭発表は学会初日の午後から順次行われました。どの区画も立ち見がでるほどの盛況ぶりで、熱心なディスカッションが繰り広げられていました。Medical Physicist Courseの学生が、発表練習の場として学会を利用しているようでした。

カーネギー自然科学センターを貸し切りで、Night Outと呼ばれる懇親会が開かれました。学会会場からはチャーターバスに分乗して移動しました。各フロアに食事やドリンクが用意され、お祭りのような賑わいでした。学会参加者だけでなく、その家族も一定の料金(大人:\$55,子供:\$50(小学生は\$25))を支払って参加できるシステムでした。

世界にはばたく日本の医学物理士の卵がいました。日本人参加者がほとんどいない中、学会期間中に一緒にさせていただいていた放医研の연구원の方です。「アメリカで医学物理士として働く」という目標に向かって、AAPMの複数の要人から熱心に情報を引き出す姿を見て、「私もがんばらなくては!」と刺激を受けました。アメリカで医学物理士として働くには...を書き出すとかなりの文章量になるのでここでは割愛します。一言でまとめると、語学力・学位・研究業績が必要で、熱意と人脈がもっと必要なようです。

関連写真を掲載中!! <http://www.sanadalab.com/gakkaihoukoku/2004-07AAPM/2004-07AAPM.htm>